

## 【第6回アフリカ開発会議サイドイベント】

### アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）サイドイベント —CARDの進捗と今後のアフリカにおけるコメ分野の開発—

国際協力機構（JICA）は、8月25日、アフリカ緑の革命のための同盟（AGRA）との共催により、ナイロビのSarova Panafric Hotelにて、「CARDの進捗と今後のアフリカにおけるコメの開発」をテーマに、セミナーを開催しました。（注1）

セミナーは、JICAの加藤理事の歓迎挨拶に始まり、ケニア農業・畜産・水産省のWilly Bett長官が開会の挨拶を行いました。イベントにはアフリカ各国の農業大臣を始めとする高官や、開発パートナー・研究機関・民間会社の代表やコメの生産者の多くの出席を得ました。

プレゼンテーションでは、これまでCARDイニシアチブの下で行われたさまざまな取り組みとその成果や、アフリカにおける将来のコメ開発の方向性を検討する上でのヒントとなる事例についての紹介が行われ、それぞれについて議論が深められました。

これまでの取り組みについて議論を行った前半のセッションでは、アフリカ稲センターのHarold Roy-Macauley所長、国立研究開発法人国際農林水産業研究センターの岩永勝理事長、マダガスカルのRivo Rakotovoao農業大臣らが、国際研究機関や政府といったそれぞれの立場から、CARDがコメ増産に向けて一定の成果を挙げつつも、研究開発のためのさらなる資金動員や、コメの品質向上に向けた取組みの必要性等について見解を述べました。

また、これからのアフリカにおける稲作振興についての議論を行った後半のセッションでは、国際稲研究所のMatthew Morrell所長やシエラレオネのMarie Jalloh農林業・食料安全保障副大臣らが、それぞれ科学技術や経済といった幅広い観点も踏まえ、アフリカ農業発展には、生産のみならず、消費に至るまでのセクター全体での開発が重要となっているといった見解を述べました。

本イベントでの議論を通し、コメの生産においてこれまでアフリカが達成してきた目覚ましい成果を確認すると共に、アフリカにおいて急速に増加するコメの需要に対応するため、引き続き努力を加速させる必要があることを再確認しました。さらなるコメの生産拡大のためには、各国政策の着実な実施とそのためにより多くの資源の投入、さらにはコメの生産者、研究機関、開発パートナーや民間セクターが努力を結集させ、アフリカ各国の政府と共に取り組んでいくことが必要です。アフリカのコメ分野の開発のためにあらゆる関係者が交流し、相互に調整し、協力するためのプラットフォームとしてのCARDの重要性が改めて認識されるイベントとなりました。

閉会に際しては、AGRAのAgnes Kalibata総裁が挨拶に立ち、全ての関係者の強いコミットメントと支援の必要性を確認してセミナーは閉幕しました。

#### ■本イベントの主な登壇者

##### 【発表者】

- ・ Yacouba Dembele、Morry Diabate コートジボワール代表
- ・ George Opara、Regi George ナイジェリア代表
- ・ 大塚啓二郎 神戸大学教授
- ・ Yaw Ansu ACET（African Center for Economic Transformation）

##### 【開会・閉会挨拶】

- ・ 加藤宏 JICA理事（歓迎挨拶）

- ・ Willy Bett ケニア農業・畜産・水産大臣（開会挨拶）
- ・ Agnes Kalibata AGRA総裁（閉会挨拶）



加藤JICA理事の挨拶

（注1）

CARDはアフリカのコメ生産量を2018年までに倍増させることを目的とし、2008年に開催されたTICAD IVにおいて立ち上げられた二国間ドナー、多国間ドナー、アフリカの機関や国際機関による国際イニシアチブです。

CARDはメンバー国23か国と関係機関の協力の下、能力開発、連携調整、その他アフリカのコメ分野の開発のために様々な活動を展開しています。各国において、国家稲作振興戦略（NRDS）の策定を通して政策レベルの能力強化を行ってきた他、コメのバリューチェーン開発を含めコメの生産量を増加させるための取り組みの支援を各国で展開しています。このような支援を通じ、CARDは、コメの生産性の向上や、栽培面積の増大に貢献してきています。